

<h1>全国一般 闘争情報</h1>	No. 201 2010.12.8
	東京都千代田区 六番町1 TEL 03-3263-0441 FAX03-5210-7422-5

もんじゅを動かしてはいけない！

2010「もんじゅ」を廃炉へ全国集会

12月4日、福井県敦賀市において「もんじゅを廃炉へ！全国集会」が開催された。1995年12月8日、高速増殖炉「もんじゅ」はナトリウム漏れの火災事故を起し、運転を停止した。これまで政府・原子力機構は配管の腐食、ずさんな管理などが原因で、運転再開延期を繰り返してきた。しかし、今年5月6日多くの反対を押し切って運転を再開した。

◆危険な事故続きの「もんじゅ」◆

「もんじゅ」は、毒性の強いプルトニウムを燃料として使用しており、その毒性は半減するのに2万4千年かかる猛毒である。さらに核兵器の材料にもなるプルトニウムを、「もんじゅ」は1.2tも主燃料にしている。また、冷却材として使用しているナトリウムは、空気や水に触れると激しく爆発炎上する危険な物質。95年、このナトリウム漏れ火災事故以降、約15年間も停止していた古い「もんじゅ」を原子力機構は、ほんの一部の調査をしたのみで、運転を強引に再開した。

その結果、「もんじゅ」は運転再開の日から、誤作動の警報が鳴り響いている。第1段階の試験終了後の8月末には原子炉内に3.3トンもの「炉内中継装置」が落下する事故がおき、修復が困難になっている。このトラブルは、装置をつかむ「ツメ」の設計不備が原因。第2段階の性能試験を来年夏に計画をしていたが、現在、大幅にずれ込む可能性がでてきている。



◆原発火災の危険地域◆

敦賀半島には、マグニチュード6.8並みの地震を起こす恐れのある活断層が走っているこ

とが分かっている。「もんじゅ」の配管は薄く長く蛇行していることから、地震が起こった場合、簡単に破断する恐れがある。老朽化した配管、危険な猛毒、ずさんな管理の「もんじゅ」の運転は、あまりにリスクが大きく重大事故の再来が危惧されている。



◆税金の無駄遣い◆

このように安全性を無視し、住民の命を危険にさらす一方で「もんじゅ」の維持管理費として、一日約 5500 万円もの税金が使われてきた。政府の行政刷新会議による事業仕分においては、要求 232 億円が全額認められている。

「もんじゅ」の運転によって核兵器に使えるプルトニウムを作ることが可能になるため、核燃料サイクルの開発を進めていることも考えられる。

労働者の納めた税金を、危険な高速増殖炉開発のため、あるいは軍事費などの国益のために使い、そのツケがまた労働者や社会的弱者にくる。そんな「もんじゅ」の運転再開、核燃料の開発を許してはおけない。

◆全国から仲間が結集！廃炉を訴える◆

全国集会には労働組合や市民団体ら全国から約 1000 人が集まり、うち全国一般からは、福井、石川、富山、新潟、長野、岐阜、大阪、滋賀、京都、広島から約 150 人が参加。参加者らは、白木海岸での集会に続き、もんじゅゲート前までのデモ行進で「もんじゅ」廃炉を訴えた。午後は敦賀市内の「プラザ万象」において屋内集会が開かれ、その後、敦賀駅前まで約 30 分をかけてデモ行進を行った。



◆全国一般独自集会◆

屋内集会の会場となった「プラザ万象」において、全国一般の仲間が集まり独自に集会を開催した。各地方労組の代表者から、それぞれに決意表明がされた。市内デモ終了後にも、総括集会を開催し、「もんじゅ」が廃炉になるまでともに訴え続けていくこと、さらに運動を広げ一層の団結と連帯を深めていこうと意思統一を行った。